

IT時代と医療

ゲスト **宮崎 緑さん**
(千葉商科大学 助教授)

藤森 宗徳
県医師会 会長

司会 **吉田 幸二郎**
船橋市 医師会会長

吉田 県医師会の『健康宣言』は、「地域連携」

「情報公開」「新世紀の医療へ」という三つのキーワードを柱にしていますが、本日はそのうちの「情報公開」を取り上げ、ご専門家の宮崎さんにお話をうかがいたいと存じます。

『健康宣言』では、「患者さんと医師との一体感を強める情報開示につとめ、IT時代にふさわしい医師会をめざします」となっておりますが、「IT」という言葉がもう一つピンとこない方が多いと思われます。まず、その辺をわかりやすくご説明ください。

宮崎 ITは、インフォメーション・テクノロジーという英語の頭文字ですが、日本では「情報通信技術」と訳しています。2000年に、固定電話より携帯などのモバイルのほうが増え、コンピュータ出荷台数がテレビより多くなり、音声よりデータウェブの方が通信回線を占めるという三つの逆転現象が起きて「IT革命元年」となりました。

IT革命が私たちに何をもたらしたかを端的に表現すると、「個々人が情報の発信源になれ



藤森宗徳 県医師会会長

る」ということです。情報に関して言えば、20世紀はマスコミによってつくられた、つまり不特定多数の人々に対して、情報がシャワーのように一方的に降り注いだ時代でした。でも今や、個々人がパソコンや携帯電話などを持ち、自らも情報の発信者となる「双方向の情報化時代」になっていきます。

藤森 たしかに、ここ数年の間でパソコンや携帯電話が急速に普及しましたね。県医師会の役員会も一人ひとりの前に端末機器を置いてやっておりますが、ちょっと前までは考えられないことでした。実は10月から私の診療所で「パソコン受付」を導入したところ真つ先に喜んだのは若い職員で、その理由が「あき時間が増えた」でした。患者さんの待ち時間が大幅に短縮されただけでなく、職員も楽になったわけです。

吉田 藤森会長のところは小児科なので、携帯電話からも申し込める「パソコン受付」は、若

革新のスピードからすると医療機関にも患者さんにも便利なメカニズムができるまでには、そんなに時間がかからないと思います。

IT化が進展していくほどに問題になるのは、ハードウェア(機器)ではなく、ソフトウェア(情報を読み取る能力)です。情報リテラシーといいますが、情報は正しいものばかりでなく、中には嘘や流言や中傷が紛れています。それを見抜くことが、IT時代を生きる私たちに必要な能力の一つと言えるでしょうね。

藤森 それに最近では、個人情報の漏洩事件が増えてきているのが気になります。医師は、いわば病気という個人の秘密情報を知る立場にあるわけですから、カルテの流出などには十分気をつけなければなりません。特に「電子カルテ」などで個人情報データを管理している医療機関は、万全の配慮をすべきですね。

宮崎 ええ。ついこの前まで大きな社会問題に

い世代のお母さんたちにはかえって好都合だと思えます。メカニックに弱い世代の患者さんが圧倒的に多い内科などでは、ちょっと難しいかも知れませんが。

宮崎 でも、ご高齢の方にやさしい端末機器も出回り始めていますし、今の技術



なった。振り込め詐欺^{さぎ}“が、医療情報を悪用して行われたら大変です。セキュリティとプライバシーの保護は重要な課題です。便利さにはリスクが伴うことを、知っておかなければなりませんね。

吉田 近ごろの患者さんの中には、ご自分の病気についてよく調べていて、時には医師が教わる立場になってしまふことすらあります(笑)。インターネットで必要な情報が誰にでもすぐ検索・入手できる時代ですし、中にはカルテを見せてほしいと言う方もおられますから、医師もつかうかしていられません。患者さんが求める情報の開示については原則的に応える、という姿勢が医師にとってますます大切になってくると痛感しています。

藤森 医師を取り巻く環境は、以前とは大きく様変わりしています。日進月歩の医学・医療に対する知識、患者さんへの対応力といった点に、医師個人がどこまで適応できるか、ということも問題です。医師にとってIT時代とは、医師としての質^{しつ}“が問われる時代と言うべきかも知れません。そのような必要性から現在、日本医師会が主導して「生涯教育」を推進していて、県医師会の会員も積極的に参加をしています。患者さんやご家族が病気に関する知識を持つということは、今や常識化している「インフォームド・コンセント(十分な情報提供と同意)」という面でも、歓迎すべきことです。しかし、



宮崎 緑さん

患者さん側が医学・医療について必要以上の、あるいは間違った知識・情報を持つと、医師に対する不信感を抱いてしまう原因になります。昔の患者さんは“先生におまかせします”“でしたし、医師も“まかせてください”というような信頼関係で医療が成り立っていました。今は、そのような信頼関係が希薄^{きはく}になっていくのが、ちよつと残念ですね。

宮崎 IT時代の人間関係は、顔が見えない状態で、情報だけがお互いを結び付けるという面があります。ですから、おのずと“非人間的”にならざるを得ないわけです。バーチャル殺人、集団自殺、ネット犯罪などが生まれる温床も、そこにあります。また、ひきこもりをはじめとする心の病が増えているのも、最近の特徴的な社会現象と言うべきでしょうね。

藤森会長がいみじくもおっしゃったように、

大事なものは信頼関係です。IT化が進展すればするほど、逆に人間同士の信頼関係を強めていかなければ、社会が崩壊します。すでに家庭にも、学校にも、地域にも、その兆^{きざ}しが見え始めていますし、キレやすく、相手に責任をなすりつけるトラブル・メーカーが増えているのが気がかりです。そういう人が患者になったら、感謝すべきことでも逆に文句を言われますから、お医者さまは大変だと思います。

吉田 そのリスクはあっても、IT時代は医師会の地域活動の重要性がますます高まってくると思われれます。医師は何と言っても、地域の方々にとっては、まだ“頼りがいのある存在”ですからね。

宮崎 そうですね。私は、信頼関係が弱まった家庭、学校、地域で大事なものは“背中で示す

みやざき みどり ●プロフィール

神奈川県出身。慶應義塾大学大学院を卒業後、同大助手として勤務する傍らNHKテレビのニュース番組「NC9」の初の女性キャスターとして活躍。その後、東京工業大学講師を経て、2000年に千葉商科大学政策情報学部助教授に就任。神奈川県教育委員、鹿児島奄美パーク園長・田中一村記念美術館長、日本医師会広報戦略委員会委員(2004年～)など公職を多数つとめる。



人“の存在だと考えています。口で言わなくても行動で示す、そこに信頼が集まるのです。お医者さまはその社会的立場・社会的要請からして”背中”で示す人”として期待されます。まさに”医は仁術”で、もしかすると、今の時代では唯一の存在かも知れないとさえ思えますね。

藤森 そんなに持ち上げていただくと、恐縮してしまいます(笑)。それはともかく、私の持論は、これからの医師は医療のみならず、保健や福祉の分野まで積極的に関わる「生活全般にわたるアドバイザー」たるべし、ということですね。そうであつてこそ、地域の方々から信頼を寄せられる存在になれるでしょうし、医師会の会員の先生方にはぜひ、それを目指して努力していただきたいと訴えております。

吉田 ところで、こうして宮崎さんにお会いしてお話をうかがっていると、とても早口なのに驚いております(笑)。NHKのニュース番組のキャスターをされていた頃は、もつとおつとりしたイメージの方という印象でしたが。

宮崎 駆け出しの頃は、おっとりしていました。でも10年程の間に、世の中の回転速度が急激に速くなって、デジタルネットワーク社会は*ドッグイヤーでしょう。すっかり早口になってしまいました。これは、職業病です(笑)。

藤森 大学は市川の国府台ですが、お住まいは鎌倉とうかがっております。大学には週に何日位いらつしゃるのですか？

宮崎 週3日から4日、真面目に通勤しております。助教授なので、会社で言えば中間管理職のような立場ですから、一人であれもこれもやらなければならず、おっとりしている場合ではありません(笑)。

吉田 その他に、政府をはじめ公職にもたくさん就いておられるので、大変でしょうね。中でも、鹿児島県奄美大島の田中一村記念美術館長という公職がありますが、どんないきさつで就任されたのですか？

宮崎 2001年9月にオープンした美術館で、田中一村という方は千葉寺にお住まいだったこともある、千葉県ゆかりの日本画家です。

中央画壇に背を向けて、名声を求めることなく、孤高の画家として極貧の中でひっそりと亡くなりました。

人生の最後に奄美に移住し、集大成の絵を描き上げたのですが、私は丁度、屋久島の世界遺産登録の策定作業から奄美に至る環境保護に取り組んでいまして、その過程で一村さんの作品に出会いました。感動のまま、鹿児島県からの要請をお受けした次第です。

藤森 たしかに、感動的なお話ですね。でも、奄美大島は遠路ですし、わざわざ美術館に向かえるのは大変でしょうから、名誉職の館長さんですか？

宮崎 だいたいなのですが。月に2度ほど通っています。オープンした当初は、毎週でした。東京から空路2時間ちよつとかかりますが、奄美はとっても素晴らしいところですから、ぜひ訪ねてみてください。

吉田 本日は、ありがとうございました。

注*

ドッグイヤー＝七倍速(犬の1歳は人の7歳にあたる)



吉田幸一郎 船橋市医師会長